琵琶湖病院・びわこクリニック
聴覚障害者外来通信

平成14年11月15日発行

ささやき

第35号

編集・発行　特定医療法人 明和会 琵琶湖病院
聴覚障害者外来スタッフ

FAX 077−579−5487
TEL 077−578−2023

琵琶湖病院に勤めて

医師　深津 栄子

琵琶湖病院に勤務してもうすぐ一年になります。この病院に勤務して、スタッフたちが手話を介して聴覚に障害をもつ人と会話している姿にはじめて出会いました。私達は聞こえてきた情報を無意識に聞き分けていますが、聴覚に障害のある人は相手の表情、身振りや手振り、筆談を見て情報を取り入れるため、コミュニケーションにかなりの集中力やエネルギーが必要であることを実感させられました。

また、聴覚に障害をもつ人は、経験したことのない私達の知らない孤独感や不安感があり、対人関係でも悩んでしまうと思います。もしかしたら、相手の考えがわからない為に、疑い深くなり、被害的になることも多いのかもしれません。

小学校の頃に「奇跡の人」を読み、ヘレン・ケラーのように情報が遮断されるということはどんな状態なのだろうかと想像したことがあります。目が見えず、人の分別のわからない状態なのだろうか？耳が聞こえないために、相手の考えていることがわからない状態なのだろうか？ヘレン・ケラーは、物や行動に名前がついていること、すなわち「言葉」という存在を知らない生活の中で混乱や戸惑いがあり、情緒的に不安定になってしまったのではないかとその時考えました。

聴覚に障害をもつ人の中には、様々な精神的な問題を抱えているにもかかわらず、伝えたいことを上手に表現できず、他人の気持ちを誤解することもあると思います。その中で、この病院のような聴覚障害専門医療が、医師、臨床心理士、看護師、ソーシャルワーカー、事務員といったスタッフたちによって懸命になされていることに対し、すごいなあーといつも感心している毎日です。

最近のトピックス

☆ 9月5日に、第12回日本心理臨床学会（中京大学）の自主シンポジウムが開かれ、「聴覚障害者の心理臨床―母子臨床」のテーマで討議がなされました。当院からは医師・藤田と心理士・古賀が参加しました。

☆ 10月13日に、大阪で第17回日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会全国研究大会が開かれました。「重複障害をもつ人たちへの援助」と題された分科会で心理士・古賀が「聴覚障害を持つ人たちへの援助」について報告しました。

☆ この夏から、院内の各部署で「かきポンくん」（簡易筆談器）の利用を始めました。好評です！

小窓

病棟看護師　塚本 浩史

手話といえば子供のころにテレビで見た小窓のおばさんを思い浮かべてしまいます。耳の聴こえない人のために、画面の下あたりで手話をするおばさんが出てくるあの小窓です。私は無表情でロボットのような手の動きをするおばさんを見て『手話っていうのは暗くて無機質なものなんだ』という印象を持ち続けていました。私の手話感は小窓のおばさんの印象のせいで、あまりいい刷りこみが行われなかったようです。

そのおばさんを見るたびに『もう少し笑ったら感じが良くなるのに』『もっとスムーズに手を動かせばきれいに見えるのに』と子供ごころに考えたことがあります。

琵琶湖病院に勤めるようになってから聴覚障害の患者さんと接する機会を持つようになりました。当然、手話を見かけたり、手話をマスターしていない私でも身振り手振りで手話の真似事をしたことがあります。『心の病のうえに声や音楽を聴く事ができないなんて』と考えると健常者の私でも悲しく暗い気分になるのに、私が出会った聴覚障害の患者さんにはそのような感じのする方々はいませんでした。

そのような出会いや経験を通して今に至ってはテレビを観る聴覚障害の方はあまりおばさんの表情などは観ていないのかもしれないし、小さい窓なので大きくハッキリと動かさないと伝わりにくいのでしょう。

そして小窓のおばさんは、実は手話通訳士なのだという事が分かりました。私の手話に対する印象が良いものへと変わりました。

委員になることで少しでも手話ができればもっと良いと思っております。

藤田先生から学んだこと

学生　和田 有希子

私は、言語聴覚士を目指して大学で勉強しています。

同級生から藤田先生の話を聞き、先生が執筆なさった書物を読み、ぜひ先生とお会いしてお話を伺いたいと思いました。そして、今年の夏休みにお話を伺うことができました。

藤田先生は私達に聴覚障害者の方について様々なお話をして下さいました。私は、話しを聞いていくにつれ、自分が見ている世界、考えている世界がどんなに狭いのかを思い知らされました。自分が目指している言語聴覚士しか眼中にないことに気がつきました。そして、そのような自分がとても恥ずかしくなりました。

今後は様々な経験をし、視野を広げて自分の世界を広くしていきたいと思っています。そして、皆から信頼される言語聴覚士として活躍したいです。

藤田先生のお話を伺って

学生　佐藤 千寿子

声を使ってお話なさる藤田先生の印象から、聴こえないということは外見だけでは認知されにくく、そのことが周囲から誤解などをうける原因となっているだろうと思いました。同時に、琵琶湖病院の医療者の方々のような理解と協力の重要さを肌で感じました。

自分では先生にことばを伝えることができず、もどかしい気持ちになりました。人と人との大切なコミュニケーションを言語に頼りすぎていて、今の自分のコミュニケーションのとり方だけでは不十分であると気付くことができました。

今後は、広い視野をもった言語療法士を目指し、言語や聴覚の障害に限らず、多くのことを吸収し学んでいきたいと思います。

編集後記

今回は紙面の都合でワンポイント手話は休みます。